

震災からの復興活動に取り組むリーダーを、  
短期・中期・長期の3つのフェーズで支援します

# 震災復興リーダー支援プロジェクト

Support our Disaster Recovery Leaders – Relieve, rebuild and re-start Japan

経過報告レポート (2012.9.12-2012.12.11)



「気仙沼 齊吉」は、昭和の初めに廻船問屋としてはじめて、  
海の恵みと魚を獲る人の苦勞に感謝し、妻と  
丁寧に商品を作ります。  
鮮度の良い材料け  
そし

## Contents

- P1-3 東北の担い手インタビュー
- P4-5 右腕が、現地に根付き起業へ
- P6 今期のトピックス
- P7 進捗報告 (財務状況/派遣人数)  
ご支援・ご寄付のお願い

1

## 東北の担い手インタビュー

2011年5月から実施している「右腕派遣プログラム」。右腕として東北の現場で活動した後に、そのまま現地に根付いて起業をする右腕修了生が生まれはじめています。

気仙沼に根差した企業の可能性を引き出し、日本ひいては世界に発信していく「ともづなプロジェクト」元右腕の藤野里美さんは、ウェブのよろず相談屋として情報発信や販促をサポートしてきた経験を活かし、この夏に創業支援プログラム『みちのく起業』の1期生となりました。右腕として参画するまでのお話や、活動中のお話などを紹介します。(インタビューは2012年7月時点で行われたものです。)

— どういう動機で気仙沼に来ようと思ったんですか。

まずは、自分の実家が被災地だったということが大きいですね。実家や家族は大丈夫だったんですけど、「関わらないといけないな、何かしたい、しなきゃ」という気持ちはありました。それに、ずっと以前から起業したいとは思っていたので。ただ、会社をすぐ辞めるわけにはいかないし、シビアなことを言うと、善意だけで会社を辞めて現地に飛び込んでも、その後の仕事を誰かが面倒みしてくれるわけでもないですから、震災直後は東京で会社員を続けながらできることをしていました。そんなとき、2011年の10月にたまたま「みちのく仕事」のマッチングフェアがあることを知りました。

— 右腕としてはどんな活動をしていたのか聞かせて下さい。

ひと月のうち2,3週間は気仙沼に居て、残りは東京でした。気仙沼では事業者さんのもとをまわって、できることをひとつひとつ、対応します。ウェブサイトをリニューアルしたいということであれば、外注先との間に入ってディレクションをしたり、ウェブマーケティングの最新の事例について情報共有したり、そこから新しくなにか始めたいということに対して相談にのったり、いろいろですね。東京ではともづなプロジェクト主催のイベントを実施したり、ともづなプロジェクトに協力を申し出てくれる方にお会いして打合せをしたり。ちょっと変わったところだと、齊吉商店さんの催事のお手伝

いで、二子玉川の東急フードショーに1週間立ったりもしました。さんまのつみれ汁と海鮮丼をイートインとして提供して、牡蠣のオリーブオイル漬けの試食販売もやりました。

和枝さんが「何を出すか、どういう展示にするか、藤野さんに全部おまかせします。考えるところからやってもらえますか」って。齊吉商店としてもそういう催事って初めてだったので、何をイートインで出して、何を売り場スペースに置か、試食販売はこれを出すとか、全部企画しました。そこで得た気づきをfacebookになにげなく記録していたのですが、オカッテの元社員さんやほぼ日の方が「すごく参考になります」とコメントをくれたんです。その一部始終のやり取りを和枝さんが見て、「これはすごいこと！貴重なので、社員とも共有したい」と。で、ぜひレポート化してほしいということで、改めて和枝さんに提出しました。私も一日一日新しい気づきがあって、「今日はこれやってみよう、明日はこれやってみよう」って考えながら仮説を作っては検証するみたいな感じで面白かったです。



いろいろな形で情報発信力アップを手がけているんですね。発信するために必要な準備はわりと誰でもできるんですけど、何を発信するかの「何を」っていうところまでを考えないとダメだなと。単純に「気仙沼で元気です」っていう情報だけだと、見る側も長く続かないかなと思っています。食べるものだったり、気仙沼の人だったり、何か気仙沼に関心を持つためのきっかけを見つけてもらいたい。そして直に体験してほしい。これはもう一人の右腕である小林君とも話したのですが、私たちにできる最低限のことというのは、自分たちの周囲にいる友人知人たちに、自分たちを通じて気仙沼や事業者の状況を知ってもらうこと。で、関心を持ち続けてもらって、おいしそうだとせば買ひ物をしてもらったり、楽しそうだとせば遊びに来てもらったり。そういうことかなあと。そういう意味で、facebookは重要ですね。

一齊吉商店の和枝さんは、藤野さんから見てどういう思いでプロジェクトをやられているように見えますか。

齊吉商店さんは、震災前から催事で新宿伊勢丹に呼ばれていることもあって、気仙沼の外の状況や、外から見た気仙沼を多少なりとも分かっていらっしゃると思うんですね。「味はいいけどこのパッケージならうちでは置けない」と言われたこともあるそうですし、モニター調査の結果通りに作ったら全然売れなかったこともある。震災前から、そういう苦労があるんですよ。そんな齊吉商店の社長や和枝さんがよく言うのは、市場で戦うための「武器」を身につけたい、ということ。武器というのは例えばソーシャルメディアの使い方であるとか、インターネットの活用です。震災前までは武器を持っていなかったとおっしゃるんです。その齊吉商店さんが、「そういう武器を得るのであれば、自分たちだけじゃなくてみんなで身につけようよ」と。それがこのプロジェクトですね。

一販促物を作ったり、facebookの講習会もやられていたりするんですね。「藤野さんに聞けばなんとかなる」みたいな、ウェブのよろず相談屋さんのような感じでしょうか。

そうですね。ウェブもやるけど、売り子もするし、facebookでライターもする。私は、分かりやすいように「ネットの仕事をしてきました」と普段は言っているのですが、企業や商品のブランディングに関わる仕事をしてきました。特に強みであるウェブを中心に据えて、テレビCMなどの広告宣伝から、イベント、パンフレットなどの紙媒体を使ったものまで、様々な企画を複数の会社で、とにかくいろいろかじってきたのですが、それを広告代理店のようにクライアントに提案する立場ではなくて、一企業の「中の人」としてこれらを経験できたことが、今すごく役に立っていると思います。この経験を活かして、とにかく自分のできることはなんでもやりたいなど。



—藤野さんは気仙沼で起業していく上で、今後こうしていきたいというのはありますか。

この6人衆が集まったところに右腕としてポンッと入れてもらえたのはご縁なので、起業できたとしてもよろず相談屋は当面続けたいと思っています。

私にはネットという得意分野はありますが、それは手段と捉えて、何をやるかはその時々で決めたいですね。将来はこうなっていたいという妄想はあるのですが、これをしたいというのは実はあんまりなくて、自分ができることが仕事になればいいと思っています。ですから「できること」を拡張したり、その質を高めていきたい。ちょっとふざけているようにも見えますけど、振り返ると、ご縁とか人とか機会に恵まれていろいろと実現できてきた気がするんです。思いつきも妄想も、念じていると、何かの拍子にかなうことがある。だからいつも頭の中は思いつきだらけですし、「妄想」も時々アップデートします。

—これからも応援しています。ありがとうございました。

## ■藤野里美さんが取り組んでいる

### 『ディスカバー気仙沼』の事業について

「ともづな印」というブランド名を開発、展開。3つの事業を通じて、気仙沼の産品および空間をブランディングする。

1. ともづな印の食事業（郷土料理にこだわった食堂運営や、都市部における食堂イベントの実施）
2. ともづな印のツアー事業（企画立案から実行まで地元住民によるボトムアップ型の現地ツアー）
3. ともづな印のインターネット事業（ともづな印商品の紹介および、通販事業）

※シニア層（有償ボランティア）と若年層（従業員）をマッチングしたチームを作り、運営にあたることで、副次効果として、シニア層の知恵や経験を次世代に伝承するため環境づくりも目指している。



巻頭インタビューで紹介した藤野里美さん以外にも、右腕修了後に様々な事業創出に取り組んでいる右腕たち。修了後に起業した右腕は、全部で13名にも上ります。起業を念頭に置いた右腕派遣プログラムへの応募も増えており、右腕修了後に自分で仕事を作りだしていく流れを、ETIC.としても応援していきたいと考えています。今回は、ETIC.の創業支援プログラム「みちのく起業」メンバーとなった元右腕たちの、事業をご紹介します。

### 七ヶ浜アートカフェ「AJITO」(宮城県宮城郡七ヶ浜町)

#### ■事業内容

「七ヶ浜町のブランディング」「地元の方の収益・生きがいの向上」「様々な人々が集う場所作り」を目的として、町に元々あった美しい景観を見ながら憩う場所を再び作り、様々な人々が町に集い、話し合い、新しく考えをクリエイティブできる場所を作る。アートカフェ建設後は地元のお母さんに地元の特産を使った料理を作って頂き出していくことで、地元の方の収益向上に貢献していくことを考えている。

#### ■メンバー紹介:久保田靖朗

2012年3月より資金調達と復興期の活動モデルの構築をミッションに株式会社ドラマカフェに右腕として参画。今後の活動プランを派遣先企業と共に作成し、内閣府「復興支援型地域社会雇用創造事業」ビジネスコンペに合格。7月末で同活動を修了し、みちのく起業2期生となる。



### 『おらほの家』プロジェクト(宮城県石巻市牡鹿半島)

#### ■事業内容

保険制度外サービス等として介護予防が必要だと思われる高齢の方や精神・身体障害者、子供達、いわゆる弱者と呼ばれる方々を対象として、震災後問題となっている生活不活発病の予防、精神的・身体的なフォロー、新しい公共としての地域コミュニティー創造から『やりがい』『生きがい』の再構築を促す『場』を宮城県石巻市、牡鹿半島等を中心に展開していく事で、持続可能な地域で支え合う社会の復興を目指す。

#### ■メンバー紹介:野津裕二郎

2011年5月よりキャンパス東北の短期ボランティアスタッフとして宮城県石巻市で避難所にて活動。2011年8月にふれあい鶴見ホスピタルを退職し、9月よりキャンパス東北に右腕として参画し、現地スタッフとなる。現在までリハビリテーション担当、コーディネーター活動を行っている。



### 一般社団法人マーメイド(宮城県石巻市(鮎川浜))

#### ■事業内容

震災後より、漁網の補修糸を用いたミサンガ作りを行なってきた牡鹿漁協女性部・有志「マーメイド」による地元海産物を利用したお弁当・飲食店運営事業。もともとあった飲食店が壊滅状態の石巻市牡鹿半島において、大きさや形のキズの問題により市場に出回らず活用されなかった海産物を、古くから親しまれる地元の調理方法を用い、心休まる場所を求める地元住民の方や、地域の食材を求める観光客・ボランティア、工事者等に向けて提供していく。

#### ■メンバー紹介:多田知弥

早稲田大学商学部を卒業後、2009年よりアクセンチュア株式会社に勤務。2011年9月より社内ボランティア休職制度を利用(2012年7月末に正式退社)し、「一般社団法人つむぎや」の立ち上げ及び活動に右腕として参画。2012年7月に「ぼっぼろ食堂」の建物が完成。同月、お弁当屋としてオープン。一般社団法人マーメイド設立時より経営まわりの業務をサポート。

### 到福旅遊(とうふくりょゆう)(福島県福島市)

#### ■事業内容

ビジネススタディツアーを実施するため、訪問先のコーディネーターと、ツアーのアテンドを行う。日本の首都圏のビジネスエリートツアー顧客、相双地区(相馬・南相馬)の商工業者(特に製造業)をツアーのアテンド先とする。県外の方には、ツアーを通じて福島を抱える課題と福島を持つ可能性を理解していただき、アテンド先の商工業者の方々には、ツアーを通じた出会いを新産業創造へのきっかけとしていただくことで、福島を創る新たなビジネスを生むことを目的とする。

#### ■メンバー紹介:加藤裕介

アクセンチュア株式会社に入社し、中国での業務を経験。2012年4月より一般社団法人Bridge for Fukushimaに右腕として参画し、プログラム・オフィサーとして中間支援先におけるプログラム・イベントの企画・運営を実施。その後、右腕を修了し、みちのく起業2期生となる。

### りぶらす(宮城県石巻市)

#### ■事業内容

からだを学ぶ場を作り、怪我や病気の予防、また障がいの理解につなげる「からだの学びや事業」と、軽度の方を対象としたデイサービスをつくり、要介護状態から改善する方を増やします「介護予防通所介護事業」を実施。「自分のからだを自分で学ぶ」ことが出来る場を創造し、本人や家族の怪我や病気、介護の予防、障がいの理解につながり、多様な方が暮らしやすい社会を作ることをミッションとする。

#### ■メンバー紹介:橋本大吾

2007年に理学療法士免許取得。在宅でのケアを中心に、通所リハビリ、介護老人保健施設、訪問リハビリテーションでの仕事に従事。2011年5月より被災地支援活動を開始し、6月にface to face 東日本大震災リハネットワークを有志と立ち上げる。現在face to face石巻の代表。



## ■みちのく起業第二期キックオフ合宿(9月26日～27日)

### ■起業への意気込みを確認し合い、第二期スタート。

一期・二期と募集を行ったみちのく起業。第二期採択者を集めたキックオフ合宿を仙台にて開催しました。当初、不安げな表情で会場に足を運んだ起業家の方々も、アイスブレイクを経て次第に緊張もほどけ、すぐに自然と話ができるほどの仲に。年齢、経歴、業種ともに様々な方が集合したキックオフ合宿は、起業に向けた意思を確認すると共に、メンター、担当コーディネーターからのアドバイスを受けながら今後の事業計画を磨き上げる場となりました。



## ■みちのく仕事 福島・右腕派遣プロジェクト説明会(9月27日)



### ■ふくしまの現状を感じ、いまできることを考える

ふくしま連携復興センターの代表理事でもあり、福島大学災害復興研究所にも所属されている丹波先生と、RCF復興支援チーム代表の藤沢烈さんにお越し頂き、福島の実状と募集している福島プロジェクトについてお話いただきました。福島出身や縁のある方も多く来られており、福島のために何ができるのかを考えている意識の高い方々が集まりました。

### ■募集プロジェクト一覧

- ・浪江町復興支援コーディネーター
- ・ふくしま連携復興センター
- ・蓮笑庵くらしの学校

## ■みちのく仕事 右腕募集説明会&プロジェクト活動報告会(10月5日)

右腕を募集中のプロジェクトのうち、3つのプロジェクトの関係者を招いて、各プロジェクトの活動報告と右腕募集のプレゼンテーションをおこないました。東京にお越しにできなかったリーダーとはスカイプで現地とお繋ぎし、来場者とインタラクティブにお話いただきました。参加者(22名)からは「現地の生の声を聴くことができよかった」「今後のキャリア考え、決断したい」などの感想がありました。

### ■募集プロジェクト一覧

- ・南三陸まなびの里
- ・ともづなプロジェクト
- ・ぐるぐる応援団



## ■みちのく仕事マッチングフェア(11月3日)



■今こそ、東北の「事業創造」や「地域経営」に挑むリーダーの『右腕』を募集！  
今回で5回目となったマッチングフェアには、12プロジェクトのリーダーが新たな「右腕」を募集するためにプレゼンテーションを行いました。震災から1年8か月を過ぎ関心が薄い時期かと思われましたが、100名が集う盛会となりました。特に今回は右腕へのエントリー希望者が30名と多く、東北に関わりたという方にとって東北との新しい接点がつくれたと感じます。次回のマッチングフェアは2013年2月23日(土)に東北・仙台で開催予定です。

### ■募集プロジェクト一覧

- ・被災地情報化プロジェクト
- ・復興まちづくり推進力！ラムズ
- ・女川町復興連絡協議会
- ・三陸ひとつなぎ自然学校
- ・大槌ひと育て×まち育て大学設立運営プロジェクト
- ・ともづなプロジェクト
- ・仮設住宅支援事業
- ・放課後学校「コラボ・スクール」プロジェクト
- ・Bridge for Fukushima
- ・まちフェス
- ・気仙沼スマートシティ・ぐるぐる応援団

## ■みちのく起業中間ギャザリング(11月17日～18日)

■事業の想いを再認識し、事業加速に必要な知識を学ぶ。

復興に向け、立ち上がった一期・二期の起業家総勢50人を対象に集合研修を開催しました。事業のコンセプト、ターゲット、提供価値を起業家、メンターとの対話を通して見つめ直すことをテーマに、プログラムは行われました。

メンターの株式会社舞台ファームの代表取締役の針生信夫様や一般社団法人Bridge for fukushima代表の伴場賢一氏、株式会社ファミリアの島田昌幸氏をお呼びして、事業の想いを実現していく際の心構えや先輩起業家として、困難をどう乗り越えてきたかなどお話いただきました。

日々の業務に追われ、なかなか事業の中長期的戦略やビジョンを深く考える時間を割くことができない起業家の方々にとって、今回の研修は事業のビジョンを再認識し、お互いの事業に対してフィードバックをし合うことで気づきを得るだけでなく、ネクストアクションを明確化する契機となりました。一期・二期の初めての顔合わせでもあったため、起業家同士の交流は盛り上がり、今後のアクションへの弾みを付けました。



## ■右腕合宿(12月7-8日)

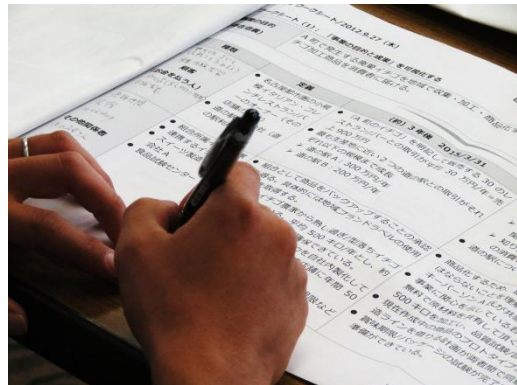
今回で5回目の右腕合宿。恒例の宮城県仙台市郊外の秋保・木の家で開催されました。参加人数は当日の雪と地震(M5)の影響もあり20名と少ない人数となりましたが、右腕派遣終了後に起業した右腕OB・OGなども参加し、地域や役割、世代を超えて東北全体の取り組みを体感する場となりました。今回の合宿では普段の業務から離れ、右腕派遣時に目標としていたことは何だったのか、右腕となる前に記載したエントリーシートや月報を見返しながら、派遣終了時に向けて改めて目標設定を行うワークを実施。右腕からは、「一人で振り返ることに限界があるなかで、合宿という機会に同じ右腕やETICのスタッフと目標設定を考えられる機会があり、今後の活動に大変役だった」との声をいただきました。



## ■各地で開催、合同戦略会議。

### ■起業家同士で互いの事業を高め合う。

みちのく起業では、毎月地域や事業分野に精通したメンターの方を交え、起業家の事業に対してメンタリングを行う合同戦略会議を各地域で開催しています。毎月、メンターへ事業の進捗を報告し、行動へのフィードバックをもらいます。会議中は、メンターからだけではなく起業家同士でお互いの事業に対しフィードバックやアドバイスが飛び交うようになってきています。起業家同士の協働事業も生まれてきています。支援終了後も起業家同士で集まり、切磋琢磨し合えるような関係性も地域にできつつあります。



## 5 プロジェクトの進捗

2012年12月11日現在、右腕へのエントリー者数は累積342名、そのうち133名を右腕として現地へ派遣しました[緊急支援フェーズ20名、リーダー支援フェーズ113名(派遣決定者も含む)]。これまでの支援プロジェクト数は63、現在は34プロジェクトに45名の右腕を派遣中です。

## 6 ご支援・ご寄付のお願い

本プロジェクトについては、スタート以来、国内外の個人・団体・企業の皆様より大きな関心を頂戴し、現在のご寄付の総額248,103,261円のほか、民間企業や国内外の財団から引き続き支援に関する照会をいただいております。

しかしながら、右腕人材の派遣をはじめとして、現地で復興の取り組む人々からの支援のニーズは予想以上に高く、右腕派遣の目標を「50件のプロジェクトに200名」と当初の倍に設定しなおしたのをはじめ、各プロジェクトへのハンズオン支援の充実、新たなプロジェクトのインキュベーションやスタートアップ支援など、震災復興リーダー支援プロジェクトの全体像の再構築に取り組んでいるところです。

目標の変更に伴い、総予算額も3年間で6億円以上の規模となる予定で、改めてファンドレイジング戦略の強化を実施してまいります。

皆様におかれましては、「震災復興リーダー支援基金」のPRへのお力添えをはじめとして、事業連携や各プロジェクトへの個別のご協力など賜りますよう、引き続きよろしく願い申し上げます。

>>寄付ページURL

[http://www.etic.or.jp/recoveryleaders/donations\\_support/please\\_donate](http://www.etic.or.jp/recoveryleaders/donations_support/please_donate)

### 連絡先・お問い合わせ先

#### ◆NPO法人ETIC内

震災復興リーダー支援プロジェクト 事務局

(担当:山内・辰巳)

東京都渋谷区神南1-5-7 APPLE OHMIビル4階

mail : [fukkou@etic.or.jp](mailto:fukkou@etic.or.jp)

Web : <http://www.etic.or.jp/recoveryleaders/index.html>